

参考資料：岡山県縣上道郡古都村史、現代古都の郷、ふるさと古都
岡山史蹟めぐり（岡山市立西大寺公民館古都分館）、岡山市の地名

後楽窯の由来

備前焼は岡山県和気郡伊部で焼き出していたことから別名伊部焼きといいその歴史は古く千数百年の昔に始まっている。江戸時代には歴代の備前藩主から保護されることとなり現代に至る。芸術品としてその名も高く、県の花形特産品として全国はもとより諸外国にも知られるようになった。

後楽窯は日本三公園の一つ、後樂園の近郷古都の郷に登り、大釜を築窯したことから後楽窯と名付けた。

こうした陶芸品（土ひねり）の試作を楽しむ者が多いので公民館古都分館で受講生を募集し、毎月後楽窯の工房で先生の実地指導を受けている。また、昨今方面からこの窯元を尋ねて土ひねりを身に付ける日人が多くなった。

由来（国富窯）岡山市国富町で窯元を開いていたので、地名をとって国富窯と称す。作品を一度 80 度から 900 度の温度で素焼きしてその上に釉薬（うわぐすり）をかけ、もう一度 1250 度位に焼き上げて本焼きしたものである。